〈災害が起こる前の備え〉

ペット用品チェックリスト

【優先順位①】動物の健康や命に関わるもの

- □ フード（少なくとも５日分～できれば７日分以上）
- □ 水（フードと同じく）
- □ 療法食
- □ 薬
- □ キャリーバッグ
- □ ケージ
- □ 予備の首輪
- □ リード（伸縮しないもの）
- □ ペットシーツ
- □ 排泄物の処理用具
- □ トイレ用品（猫の場合トイレ砂も）
- □ 食器

【優先順位②】情報

- □ 飼い主の連絡先
- □ ペットに関する飼い主以外の緊急連絡先
  （預かり先などの情報も詳しく）
- □ ペットの写真（携帯電話に画像を保存）
- □ ワクチン接種状況
- □ 既往症・健康状態
- □ かかりつけの動物病院などの情報

【優先順位③】その他ペット用品

- □ タオル
- □ 粘着クリーナー
- □ ブラシ
- □ ウェットタオルや清浄綿
  （目や耳の掃除など多用途に利用可能）
- □ ビニール袋
  （排泄物の処理など多用途に利用可能）
- □ お気に入りのおもちゃなど匂いがついた用品
- □ 洗濯ネット
  （猫の場合は屋外診療・保護の際に有用）
- □ ガムテープ
  （ケージの補修、段ボールハウス作り等に有用）
- □ マジック（動物情報の掲示など多用途に使用可能）

そのほか、古布や新聞紙などを用意しておくと重宝します。
上記のもののうち、名前を書けるものはすべて記名しておきましょう。
ペット用備蓄品保存袋の持ち手に、年齢やワクチン接種などのペットの個体情報や、飼い主の連絡先を記した名札をつけておくのも有効です。災害時はペットもストレスを感じているため、できるだけ「普段通りのもの」を用意しておくことが大切です。

●困ったときの緊急連絡先　必要であれば連絡先をメモをしておきましょう！

佐伯市役所 防災危機管理課	0972-22-4567
佐伯市役所 環境対策課	0972-22-3956
おおいた動物愛護センター	097-588-1122

かかりつけの動物病院
電話
持病やアレルギー/常備薬

〈配慮の見える化〉

動物アレルギーへの対策

飼い主が事前にできること

普段からこまめなケアを

ブラッシングや体ふき（アレルゲン対策用ペット用シートで）のケアをしておきましょう。体の保湿や、部屋の加湿でフケ対策も！

キャリー慣れ

「猫はキャリー内にいます」と示せるように慣らせておきましょう。キャリーには布カバーをかけて毛の飛散防止を行えるようにしておくとよいです。

対策グッズを備える　「配慮が見える努力」が肝心です！

主目的	具体的な品名
毛などの飛散防止	キャリー 布カバー、替え布、毛布などのキャリーを覆えるもの （予備の洗える布も用意）
ケア	体ふきシート（低刺激のもの）
衛生	トイレ用／小袋・消臭袋 ・密閉容器（小さな蓋つきゴミ袋やバケツ） 室 内 用／小型空気清浄機や携帯ファン+フィルター 飼い主用／マスク・除菌シート・粘着クリーナー
説明用	アレルギー配慮メモ（カードサイズ） 例）毛の拡散を防ぐためキャリーに布をかけています トイレは密閉処理をしています アレルギーの方がいたらお声かけください　など

飼い主が避難所でした方が良いこと

周囲と“対立しない”ようにコミュニケーションをとりながら
お互いがストレスなく過ごせるように配慮をしましょう。

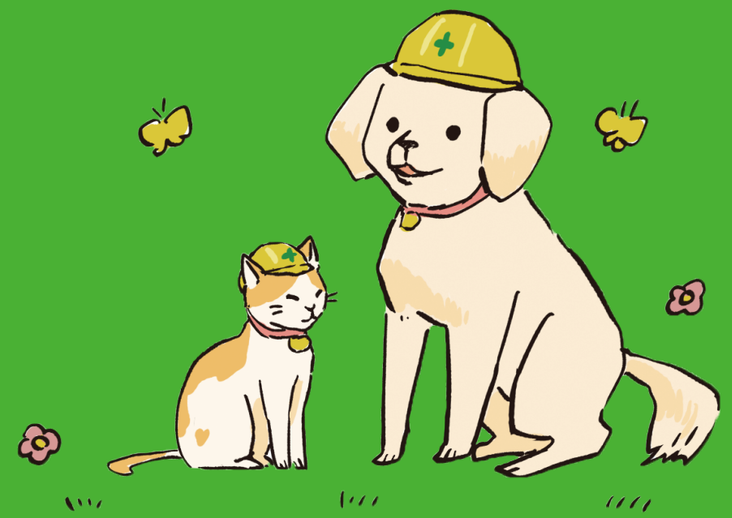
- **●キャリー内で管理、布カバーの使用**
- **●開放は原則しない**　短時間のケア時のみ
- **●可能なら隅の席や風下を希望**
  「こちらの方が迷惑をかけないので」と柔らかく伝える
- **●こまめな手洗い・消毒**
  猫を触った後に手を拭く（消毒する）ことで
  他の人への接触時のアレルゲン対策

- **●定期的に周囲の清掃**
  ウェットティッシュで毛を拾うなど
- **●状況説明を丁寧に**
  「猫は閉じ込めていません、落ち着かせています」など
- **●避難所に入る時**
  粘着クリーナーで自分の服に付着した毛をとり入室する

保存版

知っておきたい、防災のこと

ペットのための防災ハンドブック



災害時にペットを守れるのは
飼い主だけです。
大切な家族だからこそ、日頃の備えを
万全にしておきましょう。

発行：佐伯市防災局防災危機管理課
監修：おおいた動物愛護センター

制作:2025 Ver.1

いざというとき、ペットはどうする？

2011年の東日本大震災では、飼い主とはぐれたペットの姿が数多く報道されました。またペットを連れての避難生活の困難さについても注目されました。

さらに2018年、2019年の大型台風の際には、自治体がSNS等でペット同行避難を呼びかける一方で、一部ペット受け入れ不可の避難所もあり、対応にバラつきがありました。

飼い主とペットが一緒にいない・逃げられないことに備えて、ご家族・ご友人などの信頼できる方々との助け合い・支え合いができるようにしておきましょう。

ペットと「同行避難」が原則

東日本大震災で飼い主とはぐれて放浪状態になったペットが続出したことから、環境省では2013年に「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」を作成しました。（2025年も改訂予定）

2018年には「人とペットの災害対策ガイドライン」へ変更・改訂し、ペットと避難する際の基本行動などを詳しく説明しています。

このガイドラインにて、ペットは飼い主との「同行避難」が原則であると示されました。では、「同行避難」とは、どのように行動することでしょうか。

「同行避難」は、飼い主がペットを連れて避難をすることです。勘違いされている場合も多いのですが、飼育エリアにいるペットの世話を飼い主が行う「同伴避難」や、飼い主とペットが同じ場所で生活する「同室避難」とは異なりますので、避難所では管理者の指示やルールに従いましょう。

ただし盲導犬、介助犬、聴導犬などは原則同室が認められています。

〈災害が起こる前の備え〉

責任をもって飼いましょう

一緒に連れていけますか？

頭数を考えよう

一緒に連れて避難できる頭数は限られています。よく考えて適正な頭数を飼いましょう。

すでに多頭飼いをしていて避難が難しい場合は、ご近所や飼い主仲間にお願いしておきましょう。

猫は室内飼いを

猫が外にいると災害が起きても呼び戻せず、避難の時に連れていけません。猫を室内で飼うことは、猫の健康と安全を守ると同時に、災害への重要な備えです。

不妊去勢手術をする

不妊去勢手術をしておくと、多くのペットと一緒の避難所などでも繁殖のための争いやストレスを軽減することができます。マーキングなど問題行動防止のためにも不妊去勢手術をしておきましょう。

大きさや健康状態

大型犬や病気のペット、自力で動けない高齢ペットを飼っている場合は、カートや補助具など移動手段を考えておきましょう。家族のほかにも移動などを手伝ってくれる人を探しておくと安心です。

身元を示すものをつけていますか？

突然の災害に驚いて逃げてしまい、ペットが迷子になることがあります。保護された際に飼い主のもとに戻れるよう、普段から迷子札などを付け、さらに首輪が取れてしまった時の確実な身元証明としてマイクロチップの装着といった二重の対策をとりましょう。

犬の場合

首輪・迷子札
鑑札・狂犬病予防注射済票
マイクロチップ

※犬の鑑札と狂犬病予防注射済票の装着は狂犬病予防法で飼い主に義務付けられています。

猫の場合

首輪・迷子札
マイクロチップ

※猫の首輪は引っ掛かり防止のため力が加わるとはずれるタイプのものがよいでしょう。

※マイクロチップは15桁の個体識別番号が記録されたチップのことで、動物病院で装着が可能です。専用リーダーで読み取り、データベースに照会すると、飼い主情報を確認できます。登録を忘れずに！

〈災害が起こる前の備え〉

災害時に役立つ社会化やしつけ

「社会化」とは、人や他の動物、様々な物や環境に慣らしていくことです。他人に友好的に接することができると、人もペットも避難生活のストレスが減ります。避難所では鳴き声や吠え声、他人を怖がる、咬む、においや抜け毛などがトラブルの原因となります。知らない人や他の動物がいても落ち着いていられることは日常生活でも重要です。

人や動物に慣らしておく

子どものころから来客に遊んでもらったり、多くの動物と接したり、無理のない範囲で社会性をつけさせましょう。成長してからでも様々な物に慣らしていくことは可能です。怖がる場合は積極的に触れ合うというより、平常心でいられることを目標にしましょう。苦手なことは無理強いをしないで、時間をかけて慣らしていきましょう。

様々な音や物に慣らしておく

いつもと違う音や物に囲まれることは、ペットにとっても大きなストレスです。いつもと違う散歩コースを歩くなど、日頃から色々な環境を無理なく体験させておくと、環境の変化によるストレスを軽減させることができます。

ケージに慣らしておく

動物病院に連れて行く時だけに使うのではなく、日頃から扉を開けた状態で部屋に置き、ペットがくつろいだり眠ったりする「安心できる場所」として慣らしておくようにしましょう。避難時の速やかな連れ出しもでき、ケージの中で過ごす時間が長くなる避難生活でも、ペットのストレス軽減につながります。

むやみに吠えないようにしておく

普段はおとなしいペットでも、たくさんの人や動物が集まる避難所などでは慣れない環境によるストレスで鳴いたり吠えることも。迷惑にならないよう、日頃からむやみに吠えないようにしておきましょう。また、吠える原因を知り、対策を考えておきましょう。

〈災害が起きたら〉

災害後にペットと過ごす注意点

自宅が危険な場合や、避難指示が出ている場合は、ペットと避難場所に同行避難します。避難所での対応は、災害規模や収容施設の大きさ、被災者の数などによりさまざまです。状況に応じていろいろなケースが想定されますので、自分とペットの安全を優先して選ぶようにしましょう。

避難所で生活する

避難所では人とペットは別の場所で生活し、ペットの世話は飼い主自ら行うことが原則です。いつも以上に周りの人に配慮し、飼育スペースや排泄物の処理など決められたルールを必ず守りましょう。飼い主同士で助け合い、飼育エリアの確保や清掃を行いましょう。

自宅で生活する

自宅が安全なら、住み慣れた自宅にいる方がペットも安心です。ただし救援物資と情報は避難所に集まるので、必要に応じて取りに行くようにしましょう。人は無理でもペットが自宅で生活できる状況なら、避難所から通う方法もあります。

車の中で生活する

周りに気を使わず過ごせますが、狭い空間ではエコノミークラス症候群にならないよう定期的に車外に出て動いたり、水分をこまめにとったりしましょう。また車内温度は思ったよりも上昇するため、人もペットも熱中症の危険があります。温度や湿度を確認するなど注意しましょう。

施設に預ける

避難所に入れない場合や飼い主の事情、ペットの健康状態などにより、ペットホテル、動物病院、動物保護団体などで預かってもらう場合があります。

預ける前には条件や期間、費用等について必ず確認し、誓約書なども交わしておきましょう。